

「夢を持ち続け自己実現を図れる子どもをめざして」
～四郷中ブロックにおける小中一貫教育の取組～

姫路市立四郷中学校
教諭 小林 英武

1 取組の内容

(1) 道徳・人権教育

① 道徳の時間の授業力向上

四郷中ブロック（四郷小学校・四郷中学校）では平成26年度に小中一貫教育全国サミットで「道徳・人権教育を核とした実践」、平成29年度には兵庫県道徳教育実践研究事業発表会で「児童生徒が主体的・対話的に学び、価値の理解を深める道徳教育の創造～ねらいの実現に向けた多様な指導方法の工夫を中心に～」を研究テーマに授業力向上の取組を行った。

平成28年度からは2年間で30回に及ぶ小中合同の研修、授業研究を実施した。道徳的価値の理解を深めるため、教材では読み物資料にとらわれず映像資料を積極的に活用した。また明確で具体的なねらいを設定し指導案を作成した。教師が子ども役となる模擬授業を数多く行うことにより、「子どもが考えたくなるような発問」、「子どもの発表に対する問い返し」、「思考を深めるための補助発問」を熟考することができた。また板書では、中心発問を中央に据え、意見の違いを対比的に表したり矢印や色チョークで心の変化を表したり、道徳的価値の思考の跡が残る工夫を行った。

② 9年間の学びのつながりを意識した道徳・人権教育全体計画の作成

小中学校で小中一貫アンケート結果や子どもの見取りから検証を行い、「四郷の子どもの現状から、発達段階に応じて、どのような力を身につけさせるのか」を再考した。そして9年間のつながりを意識して各学年で重点項目を設定した。

資料1「四郷中ブロック道徳教育全体計画 学年重点目標」

四郷中ブロック学年重点目標	
小学校特別支援学級	基本的な生活習慣を身につけ、友達と仲よくすることができる。
小学1年生	よいことと悪いことの区別をし、友達と仲よく助け合うことができる。
小学2年生	友達と仲よくし互いに認め合い助け合うことの大切さを実感することができる。
小学3年生	正しいと判断したことは勇気を持って行い、自分でやろうと決めた目標に向かって根気強くやり抜くことができる。
小学4年生	正しいと判断したことは勇気を持って行い、自分でやろうと決めた目標に向かって根気強くやり抜くことができる。
小学5年生	自分を高めるために、粘り強く努力し友達と支え合い学び合うことができる。
小学6年生	自律的に判断し責任のある行動をとることができる。
中学校特別支援学級	基本的な生活習慣を身につけ、自分の命を大切にし自分の思いを伝えることができる。
中学1年生	目標や夢に向かって、上手いいかない時でも希望と勇気をもって挑戦し、最後まで粘り強く努力を続けることができる。
中学2年生	相手の立場や考え方を尊重しながら自分の考えを相手に伝え、さらに他者から学び、自分自身を高めることができる。
中学3年生	連続性、有限性から自他の生命を尊重し、世のため人のために生きていくことができる。

(2) キャリア教育

① 全体計画の作成とキャリアノートの使用

全体計画では教科、総合的な学習の時間、道徳の時間、学校行事など、「どのような単元でキャリア教育における4つの能力を身につけさせることができるか」を考え作成した。

キャリアノートでは、学校行事の事前・事後や、道徳の時間の振り返りに小中共通の様式のものを使用している。小学1年生から中学3年生までのキャリアノートを同じキャリアファイルに綴じている。

② 「トライやる・ウィーク」に向けてのキャリア教育

トライやる・ウィークは「子どもたちが、新しい環境で初めて経験することを、期待と不安が入り混じった中で、どのように実践していくか」が問われる。四郷中ブロックが推進しているキャリア教育で学んでいることが生かされる体験活動である。

○ 目標の設定では、「心の教育」(Ⅰ)、「キャリア教育」(Ⅱ～Ⅳ)の視点で4つを掲げた。

Ⅰ さまざまな人とふれあおう。

Ⅱ 目標を持って積極的に取り組もう。

Ⅲ 自分で考え判断し行動する力をつけよう。(状況判断できるようになるよう)

Ⅳ 正しい礼儀作法やマナー・接し方や言葉遣いを身につけよう。

○ トライやる・ウィークに向けての取組

1 学年

教科「単元」(使用教材)	めあて
学活「わたしって」(ゆめ)	自分の性格を知ろう
学活「自分を知ろう」(ゆめ)	周囲の人から気づかない自分を知ろう
総合「なぜ私たちは学ぶのだろう」(ゆめ)	学ぶ意義を考えよう
総合「学ぶことと身につくスキル」	学校生活で身につくスキルを考えよう
総合「職業探しと職業の分類」(ゆめ)	職業を知り特性に合う職業を考えよう
道徳「午前一時四十分」	勤労を通して生きがいある人生を送ろう
総合「将来の自分を見つめよう」(キャリア)	働くために今頑張ることを考えよう
道徳「楽寿号に乗って」	高齢者に奉仕する意欲を育てよう
総合「職業調べ新聞」	自分の興味のある職業新聞をつくろう
総合「事業所決定」	自分の特性を考え希望する事業所を考えよう

2 学年

総合「わたしのトライやる体験」	教師の体験談を聞いて活動をイメージしよう
総合「接遇マナー教室」(キャリア)	社会生活におけるマナーを身につけよう
学活「プロフェッショナル・仕事の流儀」	生き方から働く意義を考えよう
学活「事業所事前訪問に向けて」	事業所の方に挨拶する内容を考え練習しよう
学活「振り返って」(キャリア)	キャリアノートに自分の思いをまとめよう
総合「新聞作り」	自分のオリジナル新聞を作ろう
学活「発表会に向けて」(キャリア)	班で伝えたいことをまとめよう
総合「発表会」	学んだことをみんなに伝えよう
学活「事業所へのお礼状」	お世話になった方に感謝を伝えよう

使用教材

(ゆめ) 姫路市キャリア形成進路学習ノート(キャリア) 四郷ブロック版キャリアノート

(3) 四郷中ブロック小中一貫教育の取組

① 異校種間交流

四郷中ブロックでは保育所、幼稚園、小学校、中学校で運動会・体育大会やふれあい農園事業、姫路特別支援学校との交流会などを行っている。また中1ギャップを軽減するために、小学6年生が中学校の行事や学習を体験したり、その感想や不安に思うことを先輩や教師への質問として「心の架け橋ワークシート」に書き、それを回答している。

○「心の架け橋ワークシート」による交流の様子

Q.友達関係で悩んでいます。どうしたらいいですか。

A.自分で考えて解決できそうにないときは、先生や家の人に相談しましょう。中学校でも困ったときは先生たちに声をかけて下さい。

Q.先輩がノートをきれいにまとめて格好いいなと思いました。ノートはどうまとめたら役に立ちますか。

A.大事なところは、赤やオレンジで書いて、赤い下敷きを敷くと消えて覚えやすいよ。テスト前はワークをもう一度解くと、点数が上がるよ。

② 保護者・地域との連携

四郷校区（保幼小中）では家庭学習の習慣づけや家族との会話を増やす目的として、年に5回「No!メディアウィーク」を実施している。

「愛護の町別懇談会」では、年に1回保護者や地域の方を対象に講演会や懇談会を行っている。「スマホ・ケータイ教室」では危険やトラブルを学び、それらを未然に防ぐ対処法を考えた。現在、各家庭で実践しているルールを出し合い共有した。また、保幼小中の行事や、子どもや保護者、地域の方の人権標語や人権ポスターが掲載されている「四郷校区人権カレンダー」を全戸に配布している。

2 取組の成果

(1) 道徳・人権教育

- ① 映像資料や役割演技など、様々な教材や指導方法を取り入れることで、子どもたちが考えやすかったり、「どっちがいいのだろう」と考えが揺らぎ、深い学びにつながる事ができた。授業づくりでは、小中合同研修が大きな良い経験になった。模擬授業では多くの小学校の先生に参加していただき、ねらいに迫るための中心発音や補助発問など、忌憚のない意見をたくさんいただいた。このように授業づくりしていくのだと参考になった。継続した取組が必要である。
- ② 小中学校で子ども見取りを行う際に、中学校の生徒の様子から、小学校の児童の現状や課題がよくわかり、9年間のつながりを意識することができた。

写真1 ふれあい農園事業



資料2 心の架け橋ワークシート

ト 小中の心の架け橋ワークシート ~ 月 日 曜日

中学校との交流を通して

6年__組__番 名前()

① 中学校にむけての期待度をあらわします。色鉛筆で色を塗りましょう。

0% 20% 40% 60% 80% 100%

← 不安がある → 期待している →

< 理由 >

② 一年間通して中学校の先輩方と様々な交流活動をしてきました。全体を通して「学んだこと」「感じたこと」をかきましょう。(オープンキャンパス・部活動体験・ワークシート・その他)

③ 先輩からのメッセージ

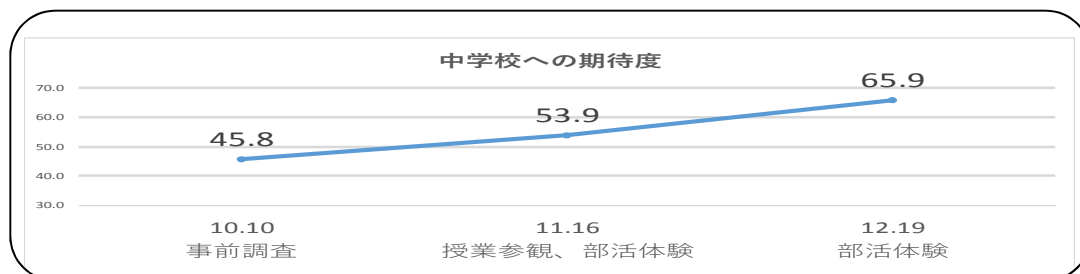
(2) キャリア教育

- ① 全体計画作成や、共通の様式であるキャリアノートを使用することで、教育活動全体がキャリア教育につながっていることを実感することができた。また同じキャリアファイルを9年間使用することで、子どもたちは自分の成長を振り返ることができた。その結果、今の学びが将来へつながることを想像しやすくなった。
- ② 生徒の感想では「あいさつなど学校生活や家で言われていることが大切だとわかった。」「このトライやる・ウィークで将来の夢が決まった。」や、保護者の感想では「社会人としての心構えや、あいさつ、話し方を教えていただき感謝でいっぱいです。」「社会の一員の自覚をもつ機会になったと思います。」「なんとなく選んだ職種にも興味をもち、将来の夢へ影響を与えたようです。」など、学校での学びや生活習慣確立のために指導していることが、社会の中でも必要であることを実感できる体験活動であった。

(3) 四郷中ブロック小中一貫教育の取組

- ① ふれあい農園事業の生徒の感想では「幼稚園児が最後にありがとうと言ってくれたので、がんばってよかったなと思いました。幼稚園児や小学2年生が楽しそうにしていたので、自分も楽しかったです。」「幼稚園の子にたくさん苗を植えてもらうため『ここに植えるんやで』と教えた。農区長さんやJAなど地域の方がいろいろしてくれてると思うと感謝の気持ちでいっぱいになった。」など、異校種間で交流することで、共生と思いやりの心が育った。
心の架け橋ワークシートでの交流では、中学生や教師の回答や激励を6年生は楽しみにし、「〇〇くんが書いてくれた。」と喜んだり、中学校への期待を膨らませる児童が増えた。初めは不安な面が多かったが、交流により中学校への期待度も徐々に上がった。

資料3 心の架け橋ワークシート 中学校への期待度



3 課題及び今後の取組の方向

平成31年度から義務教育学校が開校する。子どもたちや子どもを取り巻く環境などを把握しながら、継続的に指導ができる利点がある。小学校と中学校が一つの学校になることで不安もあるが、小学校と中学校が「お互いに認め合うこと」、「良い所は吸収し合うこと」が大切だと思う。小中の教職員が協働しながら、四郷中ブロックの子どもたちにどのような力を身につけさせたいのかを常に考え、今までの小中一貫教育の実践を検証し、教育活動の精選を行い、より特色を生かした学校づくりに努めたい。

今後は昨年度から引き続き、算数・数学科においては「思考力を伸ばす授業づくり」を、英語科においては「授業規律の確立、重点項目をしぼった指導、子ども間のコミュニケーションを重視した授業づくり」をそれぞれ9年間の学びを意識して行う。また外国籍や外国にルーツのある子どもが多い実態から、家庭環境と、日本語指導において日常会話の程度・学習言語の理解度・家庭内での日本語利用の引継ぎを行い、個々に応じた支援を行う。これらのことを来年度以降、小中一貫教育の重点的な取組としている。